

51. ワクチン接種に思う

65 歳以上が対象の新型コロナの市のワクチン接種の 1 回目を受けた。実際の注射は「チクリ」とも痛みを感じなかったので、思わず「本当に注射されました？」と聞いてしまった。「ええ、しましたよ。大丈夫ですよ」と返ってきた。が、ほんの少しだけ不安になった。年寄りの特徴か。

接種会場は市のスポーツセンターで広い。多くのスタッフがいて、丁寧に案内してくれたのでスムーズに終わった。体制は少し大袈裟のような気もしたがこれが日本式と納得した。私は自転車で行ったが、無料シャトルバスも運行されていて至れり尽くせりだ。

ビックリしたのは予め記入して持参した予診票をもとに、同じことを 3 回聞かれたことだ。受付のあとの看護師さん(?) による問診、次は医師による問診、最後は接種直前での確認だ。徹底していた。注射後 15 分(アレルギー症状のある人などは 30 分)の経過観察時間を言われたが何事もなく無事終了した。翌日起きてみると注射を打った周辺に鈍痛があったが、気にするほどでもないと思った。

ところで、市からの接種券の中に同封されていた「新型コロナワクチンの説明書」を改めて読んでみた。同書には「発症予防効果は約 95 %」とある一方、「現時点では感染予防効果は明らかでない」とある。自分みたいにワクチンを理解していない人間にとっては一見矛盾するような内容だ。が、よく読むと前者は例えばワクチンを打たなければ 100 人発症するところ、打てば 95 人は発症しないという意味、後者は感染そのものに対しての予防効果は不明ということだ。極端に言えば打っても感染する可能性はあるが発症のリスクが軽減されるということだ。発症と感染は別であるということだ。だから接種後もマスク等の感染予防対策は必要ということになる。対策しないと、まわりに感染を広げてしまうこともあり得るということだ。なお、感染した場合でも重症化防止の効果などはニュースでも言われている。ワクチン理解の基本かも知れない。

さて、ワクチン接種の予約が一時(いっとき)に集中することで、電話が掛からない等の問題が各地で発生している。受付システムの輻輳によるもので、災害時の電話など一時期に集中する古くからある問題でもある。「緊急を要する災害時につながらない電話」と揶揄されてきたこともある。最大負荷時を想定した設備は過剰になり現実的でないから、システム工学の中心でもある待合わせ理論の応用となる。昔の仕事を少し思い出す。接種の予約はコロナへの不安から一時に電話集中が発生するのは分かりきったことであり、事前に分散させる方策が必須である。

勿論インターネット予約も平行して行われていて私もそうしたが、慣れていないと面食らうことがある。同封されてきた「インターネット予約のご案内」も決して分かりやすいものではなく、実際の画面とかなり異なっていたので、年寄りの方には難しい面がある。このようなシステムの開発を各自治体はどのように発注しているのだろうかとも思う。

65 歳以上を対象にしているのなら、日時の都合はある程度融通がききやすいと思うので、市の方から一方的に日時を指定した葉書を出すやり方の方が良いと思う。都合のつかない方のみ連絡して調整するようにしたらよい。日時が決まった葉書があるだけでも安心感があるだろう。現にそうして成功した自治体があるのを新聞記事で読んだ。右へ倣えのシステムではなく、機転を利かせて有効な仕組みを作ることが必要だと思う。

一方で、オリパラを開催したい首相が 7 月末までに 65 歳以上の人全員にと急に言うから、組織の各階層で忖度が始まり、実態と異なる話が出て来ている。近所には 1 回目が 8 月下旬で 2 回目は不明という人もいる。実態は何れ判明する。

65 歳以上の人が終われば、次は圧倒的に人数が増える一般人を対象とした接種だ。自治体の担当の方など接種に係わる方は苦勞が多いと思うが、スムーズに行われるような工夫をよろしく願いたい。

(2021 年 5 月 24 日)